

◆帯単元名 「6の1思い出漢詩集」を作ろう

◆教材名 『静夜思』李白作 「季節の言葉 秋は、人恋し」(光村図書6年)

◆授業課題 (研究内容との関連、明らかにすること)

- ・着目した漢字や熟語の意味から想像したことを自分の言葉でワークシートに整理させたり、電子黒板での詩や写真の提示の仕方を工夫することで、児童は、情景や作者の思いを自分なりに想像することができたか。
- ・想像したことを友達と根拠をあげて対話させることで、児童は、さらにイメージを広げて読むことができたか。

1 単元について

(1) 児童観 (これまでの指導経過と課題)

本学級の児童は、学校行事「論語句間」や「百人一首週間」で、毎年、各20句の論語や百人一首と出会い、音読やカルタを楽しんできた。6年生時の「論語句間」では、勝ち抜きカルタを繰り返すことで暗唱したり、お気に入りの論語の意味を調べ自分の生活や経験と関連させて思いを書く学習をしたりして、古典に対する関心が少しずつ高まってきている。

また、国語科の学習では、5年生時に、俳句や短歌を教材に古文の学習を経験している。俳句を作って自分が感じたことを表現する学習にも、興味深く取り組んだ。6年生時の『狂言 柿山伏』の学習では、今とは違う言葉遣いや独特の言い回しから話の筋をつかみ、情景が伝わるような音読の工夫をして楽しむことができた。「季節の言葉 春は、あたたか」では、孟浩然作『春暁』等を教材に、漢字や言葉の意味から内容や情景を想像して読む学習を経験している。しかし、情景や作者の思いについて想像をふくらませて読む方法や手順が確実に身に付いているとは言い難い。

(2) 教材観 (教材の活用の仕方と指導事項)

新学習指導要領では、「伝統的な言語文化に関する事項」に関して、「親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること」と明示されている。高学年においては、古文・漢文等の古典に触れ理解を深めることが重要視され、音読・朗読・暗唱を行うことが指導事項として取り上げられている。漢詩をただ暗唱するだけでなく、情景や作者の思いを読み取り想像しながら音読すること、想像したことを分かりやすく相手に伝えることが大切だと考える。

光村図書6年には、年間を通して4回「季節の言葉」が配列されており、「思い出漢詩集作り」という言語活動を設定することで、これらを関連持たせ帯単元として取り扱うことができると考える。段階的な指導が可能になり、児童にとってもより充実した学習活動になると思われる。また、自分で漢字や熟語を選び自分の思いを漢詩に表現することは、漢詩を読む力を育むことにもつながると考える。

漢詩には、家族愛、自然愛、故郷を思う心などが詠われている。李白作の『静夜思』は、故郷を思う心を感じ取るのが容易で、今も昔も、人々の間で大切にされてきた心が変わらないことを感じ取らせるのにふさわしい教材である。作者の視点が、ベッドに差し込んだ月の光から山の上の月に移り、

頭をうなだれ下に戻る。この視点の動きとともに、作者の思いがどのように変わっているかを想像させることで、月が望郷の念や遠く離れた家族や友達を想起するきっかけになっていることにも気付かせることができるであろう。

また、白文の形式で提示することで、漢字や熟語の意味から詩の内容を予想し、情景や作者の思いにまで想像を膨らませる学習に意欲的に取り組むと考える。漢字にこだわりを持ち、漢字の持つ意味について自分なりに深く考えることで、内容や情景だけでなく作者の思いまでも読み取る力が育まれるであろう。

(3) 指導観

本単元は、「6の1思い出漢詩集」を作るという言語活動を設定することで、4つの「季節の言葉」を関連を持たせ帯単元として取り扱う。「漢詩を読む」「情景や作者の思いを想像しながら漢詩を読む」「自分の思いを漢詩に書く」と段階的に指導を重ねていくことで、漢詩への関心を高め、漢詩を自分なりに読む力を育てていく。卒業を控えたこの時期の児童にとって、「6の1思い出漢詩集」を作る活動は、漢字や漢詩の学習に対する意欲を高め継続させるのにふさわしい言語活動であると考えられる。

指導に当たっては、まず、題名や本文の漢字や熟語のもつ意味を考えることで全体の内容を想像して読むことができることに気付かせ、自分が着目した漢字や熟語の意味から情景や作者の思いについて想像を膨らませられるようにする。その際、想像したことを自分なりの言葉で表現できるよう想像をふくらませるための方法や手順を示し、国語辞典や漢字辞典を活用させたり、他の漢字に置き換えて感じ方を対比させたり、ウェビングマップやワークシートの形式を工夫したりする。また、情景を想像しにくい漢字は、写真や絵を手掛かりに想像できるよう、電子黒板で画像を提示する。さらに、想像したことを根拠を添えて対話させることで、情景や作者の思いについてイメージを広げさせ、より深く漢詩を読むことができるようにし、想像した情景や作者の思いを自分なりの表現による音読へとつなげたい。

このような指導を通して、漢詩に興味を持ち、情景や作者の思いを想像しながら漢詩を読む力を育てていきたい。

2 単元の目標

- ・親しみやすい古文や漢文について、漢字や熟語、言葉 を基に情景や作者の思いを想像しながら読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。【読むこと】
- ・季節を感じる言葉を知り、それらの言葉のもつ語感、使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。【関心・意欲・態度】
- ・自分の思いを漢詩（五言絶句）に表そうとする。【関心・意欲・態度】

3 単元の評価規準

- ・漢詩や短歌、俳句を、情景や作者の思いを想像しながら音読している。【関心・意欲・態度】
- ・漢詩や短歌、俳句について、内容の大体が分かり、情景や作者の思いを想像することができる。【読むこと】
- ・季節を表す言葉や漢字に興味を持ち、進んで漢詩を作ろうとしている。【関心・意欲・態度】

4 指導計画（全8時間+α） 本時5／8

月	次	時	主な学習活動	指導上の留意点
四月	第一次	1	<p>○『春暁』を読み、漢詩について知る。</p> <p>○漢詩に込められた情景や作者の思いについて、根拠となる漢字や熟語をあげて対話し、想像を深める。</p> <p>○情景や作者の思いを想像しながら音読する。</p> <p>○教師作の漢詩を見て、教師がどんな思いを込めて作った漢詩かを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解説や着目した漢字や熟語の意味から、春暁の大体の意味や情景、作者の思いを想像させる。 ・書き下し文で繰り返し音読させ、少しずつ仮名を減らし白文でも音読できるようにする。 ・児童の心に残っている春の行事や出来事を五言絶句の形で表したものを提示し、今後の学習の見通しを持たせる。
		2	<p>○「春」を題材にした短歌や俳句を、情景や作者の思いを想像しながら音読する。</p> <p>○「春」を感じる言葉を探し、見つけた言葉をウエビングマップにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌や俳句の大体の意味を理解させ、作者のものの見方や感じ方について考えさせる。 ・歳時記や句集、歌集等を手がかりに調べさせたり、年中行事に関わる言葉を集めさせたりして、季節を表す言葉に関心を持たせる。
		α	<p>○継続的に言葉集めを行い、ウエビングマップに加えていく。(春)</p> <p>○漢字一字で、今年度の目標を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエビングマップには、言葉だけでなく言葉から想像できる思いや思いを表す漢字や熟語も書き表しておく。 ・友達を選んだ漢字を見て、友達の思いを考えさせる。
七月	第二次	1	<p>○夏の俳句や漢詩を読み、情景や作者の思いについて、根拠となる言葉や漢字・熟語をあげて対話し、作者の感じた「夏」について想像を深める。</p> <p>○情景や作者の思いを想像しながら音読する。</p> <p>○教師作の漢詩を見て、教師がどんな思いを込めて作った漢詩なのかを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・着目した言葉や漢字・熟語の意味を調べさせたり、自分なりに解釈させたりして、作者が「夏」をどう感じているか想像させる。 ・漢詩は、書き下し文で提示し、少しずつ仮名を減らし白文でも音読できるようにする。 ・夏休みの目標として児童が考えそうな内容を五言絶句で表したものを提示し、漢字の意味を基にこの詩に込めた教師の思いを想像させる。 ・自分の思いを漢詩に表現することへの関心を高める。
		2	<p>○「夏」を題材にした俳句を、情景や作者の思いを想像しながら音読する。</p> <p>○「夏」を感じる言葉を探し、見つけた言葉をウエビングマップにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の大体の意味を理解させ、作者のものの見方や感じ方について考えさせる。 ・天候や自然に関する言葉だけでなく、行事や学級の出来事を表す言葉や漢字、漢字から想像できる思いを表す言葉も集めさせ、言葉や漢字・熟語に関心を持たせる。
		α	<p>○継続的に言葉集めを行い、ウエビングマップに加えていく。(夏)</p> <p>○夏休みの目標を決め、好きな熟語で書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の暑いときに感じたことや今の気持ちを表す漢字や熟語をマップに追加していく。 ・漢字4～5文字程度の熟語で夏休みの目標を書かせる。

七月 十一月	第三次	1 (本時)	<p>○『静夜思』の読み方を知り、音読する。</p> <p>○漢詩に込められた情景や作者の思いについて、根拠となる漢字や熟語をあげて対話し、想像を深める。</p> <p>○情景や作者の思いを想像しながら音読する。</p> <p>○教師作の漢詩を見て、教師がどんな思いを込めて作った漢詩なのかを想像する。</p>	<p>・『静夜思』を白文で提示し、題名や知っている漢字や熟語をもとに、大体の意味と読み方を考えさせ、音読へつなげる。</p> <p>・読み方が難しいところには、読み方を提示し、段階的に読み方をなくしていく。</p> <p>・できるだけ簡単な漢詩を提示し、この詩にこめた教師の思いについて想像させるとともに、漢詩で表現することの楽しさを感じさせる。</p> <p>・自分の思いを漢詩に表現することへの関心を高める。</p>
		2 α	<p>○「秋」の短歌や俳句を、情景や作者の思いを想像しながら音読する。</p> <p>○「秋」を感じる言葉を探し、見つけた言葉をウエビングマップの形にまとめる。</p> <p>○継続的に言葉集めを行い、ウエビングマップに加えていく。(秋)</p> <p>○自分の思いを、五言絶句(1～2行)で書く。</p>	<p>・短歌や俳句の大体の意味を理解させ、作者のものの見方や感じ方について考えさせる。</p> <p>・天候や自然に関する言葉だけでなく、行事や学級の出来事を表す言葉や漢字、漢字から想像できる思いを表す言葉も集めさせ、言葉に関心を持たせる。</p> <p>・秋の情景や今の気持ちを表す漢字や熟語をマップに追加していく。</p> <p>・書き慣れさせるために、ワークシートを準備しておき、思いついた漢詩は全てメモさせておく。</p>
一月	第四次	1	<p>○『早春賦』や短歌・俳句を、情景や作者の思いを想像しながら音読する。</p> <p>○「春」を待つ心情や、自分にとってこれから迎える「春」について考え、今の自分の思いを漢詩に表現することの意味を知る。</p>	<p>・着目した言葉や漢字・熟語の意味を調べさせたり、自分なりに解釈させたりして、作者が「冬」をどう感じているかについて想像させる。</p> <p>・これから迎える「春」が自分にとってどんな季節か、これまでの「春」「夏」「秋」「冬」が、自分にとってどんな季節だったかを思い起こさせ、その思いを漢詩に表現することへの意欲を高める。</p>
		2 α	<p>○1年間を振り返り、自分の思いを五言絶句に表現する。</p> <p>○「6の1思い出漢詩集」の原稿を書く。</p>	<p>・これまで集めてきたウエビングマップや第三次の学習後に書き残してきた漢詩を参考に、自分の思いが伝わる五言絶句を書かせる。</p> <p>・少しずつ書き残し、お気に入りの漢詩を「思い出漢詩集」の原稿として残させる。</p>

5 本時の指導（5／8）

（1）目標

着目した漢字や言葉の意味から漢詩『静夜思』に込められた情景や作者の思いを想像し、想像したことを自分なりの言葉で書き表すことができる。

（2）展開

過程	学習活動	指導上の留意点
つ か む	<p>1 漢詩『春暁』『夏夜追涼』を音読し、前時の学習を振り返る。</p> <p>2 漢詩『静夜思』の題名や本文中から、知っている漢字や熟語を挙げ、詩の内容について気付いたことを発表する。</p> <p>3 『静夜思』の読み方を知り音読する。</p> <p>4 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>『静夜思』の謎を探ろう！ ～李白は、いつ、どこで、何を見て、どんなことを思って、この詩を書いたのだろうか～</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作者の気持ちを想像する方法や手順について思い出させ、本時の学習につなげる。 ・ 『静夜思』を白文で提示し、題名や知っている漢字、熟語を基に大体の意味や読み方を予想させる。 ・ 白文の形式で音読できるよう、読み方が難しい漢字や熟語には読み方を提示し、徐々に外していく。 ・ 漢詩に込められた情景や作者の思いを想像することに意欲を持たせる。
調 べ る	<p>5 いつ、どこで、何を見て書いた詩か考え、発表する。</p> <p>6 自分が着目したい漢字や熟語を選び、その意味を基に、情景や作者の思いについて想像をふくらませる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 故郷 家族はどうしているかなあ 友達は元気になっているかなあ 帰りたいなあ 会いたいなあ ・ 月光 きれいな満月だなあ 故郷で見た月と同じできれいだなあ 霜のようにきらきらと輝いているなあ ・ 頭低 会いたいなあ 家族もこの同じ月を見ているだろうなあ ・ 「月光」を「日光」に置き換えると、明るい気分になる。「月光」は、物思いにふける感じ ・ 「低頭」を「高頭」に置きかえると、希望に満ちあふれている感じ。「低頭」は、落ちこんでいる感じ <p style="text-align: right;">等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつ、どこで、何を見て書いた詩か、想像したことをワークシートに書かせ、発表させる。 ・ 漢字や熟語の簡単な意味は、教師側で書き込みをしておく。更に深く調べてもよいように、国語辞典や漢字辞典を準備しておく。 ・ 情景や作者の思いが表れている漢字や熟語をいくつか選択させ、その漢字から自分が想像した作者の思いをワークシートに記入させる。 ・ 漢字や熟語を他の漢字や熟語に置き換え、対比させることで、その漢字に込められている情景や作者の思いについて深く考えさせる。 ・ 想像したことを自分なりの言葉で表現できるよう、想像をふくらませるための方法や手順を示しておく。 ・ ワークシートの記入が終わった児童には、近くの児童と想像したことを根拠を添えて対話させる。

<p>深 め る</p>	<p>7 着目した漢字や熟語と、そこから想像した情景や作者の思いについて全体で交流する。</p> <p>8 情景や作者の思いを想像しながら漢詩を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着目した漢字や熟語から、どのように想像を膨らませたのかがよく伝わるように発言させる。 ・ 同じ漢字や熟語を取り上げている児童から発言させる。 ・ 互いに交流させることで、選んだ漢字や熟語が同じでも、一人一人感じ方が異なることに気付かせ、イメージを広げ深めさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価規準</p> <p>◆着目した漢字や言葉の意味を基に、漢詩に込められた情景や作者の思いについて想像したことを書いている。</p> <p>A：情景や作者の思いについて、想像したことを根拠を添えて書いている。</p> <p>→ 想像するための方法や手順を示したものの中から選んで、考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情景や作者の思いが伝わるように、音読の仕方の工夫を考えさせる。 ・ ベッドに差し込んだ月の光から山の上の月に移り、頭をうなだれ下に戻るといった作者の視点の動きに応じて変化する作者の思いを、音読に表現させる。 ・ 1～3行目までと4行目の音読の仕方を工夫させる。その違いについて根拠を添えて説明させる。
<p>ま と め る</p>	<p>8 教師や児童作の漢詩を見て、どんな思いを込めて作った漢詩なのかを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ読み取りの簡単な漢詩を提示し、この詩にこめた作者の思いについて想像させると共に、漢詩で表現することの楽しさを感じさせる。 ・ 自分の思いを漢詩に表現することへの関心を高める。